

Infosys Finacle、独立系調査会社のデジタルバンキング・エンゲージメント・ソリューション

部門でリーダー評価を獲得

デジタルバンキングのエンゲージメント・プラットフォームとエンゲージメント・ハブの両部門でリーダー評価

バンガロール (インド) – 2021 年 10 月 19 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY) の完全子会社 EdgeVerve Systems の一部である [Infosys Finacle](#) は本日、「The Forrester Wave™: Digital Banking Engagement Hubs (DBEH), Q3 2021」および「The Forrester Wave™: Digital Banking Engagement Platforms (DBEP), Q3 2021」レポートでリーダーに選ばれたことを明らかにしました。

The Forrester Wave™: Digital Banking Engagement Hubs (DBEH), Q3 2021 のハイライト

- 2021 年第 3 四半期の DBEH レポートは、9 つのデジタルバンキングのソリューションを、現在の提供サービス、戦略、市場での存在感を柱とする総合 30 項目の評価基準に基づき評価したもの
- 同レポートは、[Finacle Digital Engagement Hub](#) について、優れたアーキテクチャの上に構築されており、銀行にクラウド上の複数のサービス提供オプションを提供しているほか、予防保全サービスにおいても突出していると記載
- Finacle Digital Engagement Hub は、インストールベース、既存顧客を持つ国、DBEH 関連収益を反映した「市場での存在感」のカテゴリにおいて、全てのベンダーの中で最高ランクを獲得
- Finacle Digital Engagement Hub はまた、評価基準 30 項目中 20 項目で最高スコアを獲得。評価項目には API サポート、API 管理、既製のリテールバンキングサービス、エンゲージメント・インフラストラクチャ、アプリケーション・アーキテクチャ、セキュリティ、計画的な技術拡張、SaaS 戦略、サービスの幅などがある

「The Forrester Wave™: Digital Banking Engagement Hubs, Q3 2021」レポートは[こちら](#)から無料でご覧いただけます。

Forrester 社の VP 兼プリンシパルアナリストである Jost Hoppermann 氏は同レポートの中で Finacle Digital Engagement Hub について次のように述べています。「EdgeVerve (Finacle) はエンゲージメント・インフラストラクチャが優れたアーキテクチャ上にあり、卓越しています。豊富な機能や技術、アーキテクチャ面の拡張に加えて、良く練られたソリューションのロードマップには、ハイパースケーラブルな API や機械学習、セキュリティのためのディープラーニングなど数多くの差別化要素が盛り込まれています。ソリューションには優れた API 管理がついており、個人向け、ビジネス、コーポレートバンキングの豊富なサービスが幅広く提供され、一流のエンゲージメント・インフラストラクチャで他をしのいでいます。EdgeVerve (Finacle) は、カスタムビルドのアプリを好み、既存インフラに溶け込む高度なソリューションを求める銀行に適しています。」

Infosys Finacle の最高業務責任者 (CBO) 兼グローバル部長である Sanat Rao は次のように述べています。「デジタル・エンゲージメントの最大化は、デジタルファースト時代における銀行の成長促進のカギです。弊社の統合ハブ・ソリューションは、従来、現代、新興の全てのチャネルにおいて、これを達成するための堅牢な土台を提供しています。事実、Finacle は市場における『デジタル・エンゲージメント・ハブ』サービスの草分けです。弊社のソリューションは長年、あらゆる規模の銀行が上質の体験とより深いエンゲージメントを提供できるようにしてきました。今回 (リーダーに) 認定されたことは、Finacle がリーダーとしての役割を果たし、お客様やその顧客のために他社とは違った価値を創出してきた証です。」

Infosys Finacle について

Finacle は、インフォシスの完全子会社である EdgeVerve Systems による業界トップのデジタルバンキング・ソリューションです。Finacle は従来型や新興の金融機関の真のデジタル変革を進め、スムーズな顧客体験、より大きなエコシステムにおける役割、インサイトに基づいたコミュニケーションや随所の自動化を達成するのに寄与しています。現在、100 カ国以上の銀行が Finacle を利用し、10 億人以上の顧客、13 億を超える口座にサービスを提供しています。

Finacle ソリューションは、コアバンキング、オムニチャネル・バンキング、支払い、財務、オリジネーション、流動性管理、イスラム金融、資産管理、アナリティクス、人工知能 (AI)、ブロックチェーンといった要件を解決し、金融機関のビジネスを卓越したものにします。世界の銀行の上位 1000 行に対して行われたある調査では、Finacle を導入した金融機関の資産利益率は未導入の機関よりも 33 % 高く、資本利益率は 19 % 高くなっており、また、収益に対するコストの割合は 3.9 %ポイント低いことが分かっています。

詳しくはこちら www.finacle.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらの記述は、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドでの人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2020 年会計年度（2021 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先:

マーケティング本部 安藤

Mail: mktg_jp@infosys.com